

ニュース

○本会会員の参議院議員（全国区）立候補者

前会長 正員 三 浦 義 男 君

大正 9 年東京大学工学部土木工学科卒業
 鉄道省監督局技師 静岡保線事務所長
 大阪鉄道局保線課 門司鉄道局改良課
 新潟鉄道局工務部長 鉄道省工務局長
 運輸省施設局長 戦災復興院技監
 特別調達庁監事 復興建設技術協会副会長
 国鉄球団スワローズ代表者、地下鉄（東京）及び京阪
 電鉄顧問、交通協力会会長、

正員 小 沢 久 太 郎 君

昭和 2 年東京大学工学部土木工学科卒業
 内務省技師 興亜院技師
 海軍技術本部員 戦災復興院特別建設局土木工事課長
 特別調達庁促進局次長 建設省総務局企画課長
 近畿地方建設局長 経済安定本部建設交通局長
 経済審議庁審議官

正員 柳 沢 米 吉 君

昭和 2 年東京大学工学部土木工学科卒業
 内務省技師 神戸港工専事務所長
 海河工程局技師長 運輸省港湾局建設課長
 運輸省港湾局計画課長 第 4 港湾建設部長
 中国海運局長兼第 6 管区海上保安本部長
 海上保安庁灯台部長 海上保安庁次長
 海上保安庁長官 日本港湾協会理事
 海上保安協会会長

なお、その他当会特別員代表、賛助員鹿島建設株式会社社長鹿島守之助氏（法学博士）も参議員（全国区）に立候補された。

○28年度における国鉄建設線の現況

昨年 8 月着手した中湧網線ほか 10 線の新線建設は着々と進捗し、すでに中湧網及び白新線は昨年 12 月一部分開業し、江川崎線も来る 3 月下旬に開業の運びとなつている。その後追加予算 5 億円の決定にもないあらたに 13 線の着手が決定され、なおまた 28 年度中に着手すべきものとして 6 線が追加され全部で合計 30 線、総延長にして 881 km、総金額にして 408 億円の建設工事が向う数年間の間に完成されるわけで

ある。

27 年度中には 25 億円が費され、28 年度には一躍 90 億円の予算が計上され目下国鉄技術陣を総動員して工事の完成に忙殺されている。各線の概要を表にすると次のとおりである（表-1 参照）。

表-1 建設線一覽表

線名	区間	延長	建設費総額	橋梁延長	隧道延長
中湧網	中佐呂間 常呂	29.8 [〃]	391 [〃]	0.4	0.2
小 本	甲津野 漆内	11.5	1,040	0.9	3.9
川 口	会津野下 川口	15.1	483	1.2	2.6
白 新	白山 新巻田	31.1	764	1.3	
大 系	中土小 滝	17.4	515	1.2	8.1
禰 見	大垣 谷汲口	22.4	700	0.8	0.3
紀 勢	紀伊本 尾鷲	34.5	4,077	1.1	20.0
赤 穂	播磨赤穂 西大寺	45.3	3,150	1.2	5.8
本 郷	布 加計	18.5	549	0.2	0.3
江川崎	吉野生 江川崎	10.2	270	1.3	1.5
日 田	大行司 彦山	11.7	612	0.5	2.0
遠 羽	蔡 別 遠 別	38.8	1,577	0.7	0.4
辺 富 内	富 内 右左府	37.5	1,542	0.9	2.7
根 北	斜里 標津	57.2	1,664	0.9	1.8
福 山	流鉄沢 福山	5.6	195	0.6	0.2
津 軽	豊田 三 辰	28.5	880	0.6	1.1
瓦 仙 沼	瓦仙沼 津谷	21.0	867	0.6	0.7
野 岩	荒海 滝原	8.6	131	0.2	
能 登	穴水 飯田	57.0	3,213	0.5	7.7
越 美	福井 朝日	57.9	2,711	2.5	5.6
阪 本	五 條 阪 本	23.5	3,303	1.5	10.7
三 江	備後時 赤原	54.4	2,781	2.3	2.6
岩 日	岩 国 広 穂	35.0	1,936	0.3	4.5
宮 原	室原寺 宮原	20.0	234		
内 海	北 郷 内 海	16.1	1,651	0.4	6.1
国 分	国 分 古 江	50.9	2,906	0.5	5.3
祝 崎	山 川 祝 崎	37.1	1,487	0.4	1.1
札 沼	津 臼 沼 田	48.7	663	0.6	
白 棚	白 河 棚 田	23.5	332		
魚 沼	和 迎 寺 西小谷	12.5	180		
合 計		881.3	40,804	23.6	95.4

28 年度中に実施する土木工事の主要なものは川口線第三只見川橋梁に 3 径間連続トラス(71 m × 1, 49.7 m × 2) をケーブルエレクションにて架設するほか、白新線阿賀野川橋梁及び三江線馬洗川橋梁と可愛川橋梁に 36.2 m の上路鉸桁（鉸桁としては最大）33 連の架設が開始される。隧道は表-1 のごとく線路延長の 1 割以上を占め、かつ 5 km にも及ぶ長大隧道もあるが、28 年度中に掘さく的最盛期となるのは紀勢線の諸隧道と日田線の釈迦嶽隧道(4 367 m)である。土工関係で特に土工量の多いのは白新線の上沼垂操車場(14 万 m³)で、これに対しては機械土工も計画されている。特殊なものとしては、凍上噴泥防止のための路盤置換、大系線真那岐山隧道のコンクリート道床工事等も予定せられているが、建設工事はまだ戦后再開の緒についたばかりであつて、28 年度末から 29 年度以後にかけて漸次盛大なものとなつてくるものと期待される。（国鉄建設部 高橋浩二）

記 事

◎第10回理事会(昭28.3.12.)出席者:稲浦会長,立花,福田両副会長,富樫,坂本,中島,佐島の各理事,協議事項:1)2月中行事報告,2)昭和28年度事業計画,3)昭和28年度予算,4)関東地区常議員半数改選について,5)名誉員の推薦候補について,6)土木賞受賞者の講演,7)土木製図基準(Ⅰ)刊行要領,8)会誌広告料の改正,9)後任理事候補者について,10)夏季講習会について,11)プレストレストコンクリート委員会を設置し次の諸氏を委員に委嘱すること
委員長:吉田徳次郎,委員:仁杉巖,川口輝夫,三浦一郎,深谷俊明,田村浩一,菅原操,小寺重郎,山田順治,伊東茂富,田中茂美,猪股俊司,海上秀太郎,配島治郎,木村又左衛門,渡辺和夫,国分正胤,丸安隆和。

12)朝日科学奨励金研究計画推薦について,13)土木士法案について,14)土,粉体,粒体連合講演会は当学会として応用力学連合講演会,土質基礎工学委員会等同種の講演会と重複するから止めたい意向を表明すること,15)日本工学会理事学会に日本建築学会を推薦すること,16)常議員会を3月27日開催のこと。

◎臨時常議員会(昭28.3.27.)出席者:稲浦会長,福田副会長,那波,丹羽,八田,大河戸,草間の各名誉員,大西前会長,石川(中部支部長),長浜,水越,渡辺,藤田(代)の各常議員,委任状19通,協議事項:昭和28年度事業計画及び予算案承認

本部事業計画

- 4月 常議員改選,土木製図基準(Ⅰ)発刊
- 5月 総会,第9回年次講演会,見学会
- 6月 } 関東地区地方講演会
- 7月 }
- 8月 夏季講習会
- 9月 応用力学連合講演会
- 10月 秋季講演会
- 11月 エキスカッション

その他,随時講演会,映画会を開催

(各種委員会)

- 編集委員会 会誌及び論文集の編集のため毎月1回
- 水理委員会 研究,講演会,年報及び論文集の編集
- 土木用語委員会 用語集発刊
- コンクリート常置委員会 コンクリート技術及び示方書の研究
- 土木工学叢書委員会 応用力学,下水道(後篇)
- 法規委員会 工務士法研究
- 製図規格委員会 土木製図基準(Ⅰ)発刊後引続き各部研討
- ハンドブック編集委員会 編集刊行
- 法面築堤崩壊防止委員会 継続研究
- サベージ博士文献管理委員会 随時
- 海外連絡委員会 国際会議との連絡
- プレストレストコンクリート委員会(4月1日発足予定)示方書の制定

昭和28年度予算案

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I. 会 費	10 659 000	I. 事 務 費	5 483 000
1. 正,准,学生会費	6 584 000	1. 敷地及電気水道料	238 000
2. 特別員会費	1 040 000	2. 職員諸給与	2 820 000
3. 過年度収入会費	500 000	3. 旅費及通信費	1 050 000
4. 特別賛助会費	2 535 000	4. 事務諸費	1 175 000
II. 政府補助金	200 000	5. 雑 費	200 000
III. 随刊行物収入	2 848 000	II. 会 議 費	230 000
III. 雑 収 入	3 722 000	III. 負 担 金	100 000
		IV. 支 部 交 付 金	800 000
		V. 事 業 費	9 591 000
		1. 会誌発行費	4 429 000
		2. 論文集発行費	500 000
		3. 会員名簿印刷費	500 000
		4. 諸図書印刷費	1 282 000
		5. 講演及講習会費	640 000
		6. 調査及研究費	1 440 000
		7. 諸 費	800 000
		VI. 營 繕 費	200 000
		VII. 積 立 金	100 000
		VIII. 前年度繰越損失補填	692 000
		IX. 予 備 金	233 000
合 計	17 429 000	合 計	17 429 000

2) 基金報告, 3) 特別賛助会費改正報告, 4) 昭和27年度土木賞受賞者報告。

◎各種委員会

1. 編集委員会(昭28.3.20)出席者:本間,佐島正副委員長,菊池,福岡,柴原,神田,畑野,川口,岩塚,森の各委員,協議事項:1)会誌および論文集進捗状況報告,2)原稿審査報告および新原稿審査委員の決定,3)38巻4号登載論文を下記のとおり決定した。

山本 稔:帯板のピンジョイントにおける応力集中,渡辺 隆・久野悟郎:土の突固めに対する特性及び乾燥密度曲線の実験式,篠田仁吉:粘弾性体の圧密,陶山 襄:島根県江川橋梁架設工事について,八十島義之助:活荷重による敷設軌条のねじれの実測報告,4)抄録について,5)対議の依頼先の決定,6)土木賞決定について報告,7)その他。

2. 第2回土木賞委員会(昭28.3.4)出席者:青木委員長,坂本,当山,永田,沼田,広瀬,町田,大坪,荒井,石原の各委員,稲浦会長,立花,福田両副会長,本間理事。協議事項:21名の内19名から投票

があつたので、これを本間理事立会の上開票したところ、次の学会賞 2, 奨励賞 3 を決定した。

学会賞

- 第 37 巻第 2 号 突合せ溶接継手の許容応力について 小西 一郎
第 37 巻第 6, 8 号 三池炭鉱における人工島 森田 定市

奨励賞

- 論文集 13 号 セメントモルタルの塑性とクリープ 久保慶三郎
論文集 14 号 ランガー橋の振動に関する研究 安部 清孝
第 37 巻第 10 号 土壌堤の振動に関する 3 次元考察 畑中 元弘

3. 土木建築両学会コンクリート骨材用フルイ規格打合せ(昭 28.3.17) 出席者:吉田, 国分(土木)両氏, 浜田, 久良知, 藤田, 笠石(建築)の諸氏, 協議事項:吉田博士から工業技術院標準部会の経過説明あり, 土木建築用の規格を両学会で別に作る事となつたので引続いて原案を審議の結果成案を得た。2) これをコンクリート関係の JIS に入れる場合はその委員会に一任。

◎その他

1. 日本学術会議応用力学連合講演会準備打合せ

(昭 28.3.20) 出席者:中西委員長, 最上幹事外関係各学協会担当者, 協議事項:本年は Proceedings 発行等の関係上早く開催することとし, 日本建築学会, 応用物理学会とが幹事学会となり近日中に打合せの上細目を決定し, 各学会ともできるだけ早く会員に知らせることとする。

2. 第 3 回応用力学連合講演会参加学協会打合せ

(昭 28.3.28) 出席者:日本学術会議, 機械学会, 物理学会, 土木学会, 応用物理学会, 建築学会, 協議事項:1) 3 月 20 日打合事項報告, 2) 別掲お知らせ欄のとおり決定, 3) 講演細目を打合せ決定。

支部だより

1. 北海道支部 研究発表会(昭 28.2.26 ~ 27 両日) 発表者数 30 名, 参加人員両日とも約 200 名, 講演後講師を交え懇談会を開催有意義に終了した。

第 1 日 ◎挨拶 (9 時より)

幹事長 岩本 常次

- 札幌駅前地下道工事について 札幌市役所 小森 功
- 札幌市人口推計について 札幌市役所 岡本 成之
- 十勝沖地震の被害と線路復旧の経過について 鋼鉄管理局 酒井 一
- 室蘭港石炭除積設備計画について 鋼鉄管理局 吉田 三男
- 回転式橋の交換について 鋼鉄管理局 谷垣 盛二
- 未定 室蘭開発建設部 齋瀬 寧雄
- 沖繩建設工事について 北大工学部 大平 至徳
- 釧路港北埠頭災害復旧工事について 鋼路開発建設部 小野 信太郎
- 月見橋の施工について 大林組 斎藤 謙 県

- しべ岩橋の架設工事について 帯広開発建設部 重松 学
- 青函輸送力増強対策について 青函鉄管理局 上遠野 教典

第 2 日 (第 1 部)

- 深い基礎を有する柱状態の変形に関する一考察 北大工学部 前田 幸雄
- 工作物に於て見られる岸線織面に属する坳面について 北大教養学部 沢田 登亮
- 拱の振理論について 室蘭工業大学 中村 作太郎
- 十勝沖地震によるサイロ被害の弾性学的検討 北大工学部 酒井 忠明
- 弾性梁に支持される連続版の解法について 土木試験所 岡元 北海
- 弾性基礎にある四辺四隅共に完全自由なる板の曲げについて 室蘭工業大学 能町 純雄
- 冬期に於ける水道水の温度について 北大工学部 林 猛雄
- 石狩川第三区排水路模範型実験について 土木試験所 星野 信治
- 管水路の相似法則に関する一考察~特にサイフォンの場合について 北大工学部 尾崎 晃
- 流向流速計及び潮流計試作について 土木試験所 村木 義男
- 極浅海用音響測深儀による深淺測量について 室蘭開発建設部 白石 直文

第 2 日 (第 2 部)

- 塩化カルシウム混入コンクリートについて 北大工学部 前田 直方
- モルタル及びコンクリートの水セメント比について 室蘭工業大学 太田 誠一郎
牧野 広友
- A. E. コンクリート舗装について 土木試験所 若月 前
- 道路舗装に於ける凍結防止の熱学的研究 北大工学部 平岡 英明
- 北海道道路* 弊の凍結について 土木試験所 古山 剛三
- 寒冷地に於ける道路舗装の耐久性について (第 1 報) 北大工学部 菅原 照雄
- 然別第一発電所の第一号送道工事について (中間報告) 北海道電力 大橋 康次
- 班長発電所建設工事について 北海道電力 小池 龍夫
- 辺谷院道口に於ける地入りについて 北大工学部 真井 耕策
- 盛土工事の施工管理の試験について 土木試験所 友田 啓介
- 大夕張環堤* 域地質構造について 土木試験所 佐々木 敏雄

2. 東北支部 役員会(昭 28.1.30) 年次講演会及び見学会実施要領, 予算, 実行委員編成, 組織等決定, 講演委員打合せ(昭 28.2.9) 原田主席委員外委員 10 名, 議事:講演割当決定, 伊藤常議員送別團基会(昭 28.2.10) 参会者 20 名, 大小強豪の技競べは火花を散らすの感あり盛会裡に終了す。年次講演会総務委員打合せ(昭 28.2.27) 宮本主席委員外 21 名, 議事:河上委員より本部との連絡事項報告の後, 講演会関係印刷物, 見学, 懇談会, 参加会費一部改定, 寄附金等について, 年次講演会, 見学委員打合せ(昭 28.3.5) 出席者:佐藤首席委員外 5 名, 議事:講演会, 見学会のスケジュール議決, 最新建設機械説明会(昭 28.3.11) 東北地建と共催, 参加会員 220 名, 照井支部長の挨拶に次いで次の講演があつた。

フロートマチックシングルマリアルパッチャーについて(林

宏), コンシステンシメータとモピスチャーコンペンセータについて (R. E. パートン), 小河内のパツチャプラント用冷却装置について (林寛之), コンセントリパツチャとトロリーパツチャについて (佐藤松道), ダンプターについて (林 宏),

次に映画とスライドを供覧した。ダンプター, タワーショベル, トレンチャー, 終つて懇談(質疑応答)の後盛會裡に終了した。

3. 中部支部 第10回幹事会(昭28.2.24)出席者: 高桑幹事長, 小栗, 戸田, 渡辺, 四野宮, 長坂, 小村(代), 鈴木誠一(代), 鈴木隆吉(代), 井上(代), 早川(代), 和久(代), 増山(代), の各幹事, 議事: 1) 1月行事報告, 2) 2月の行事について, 3) 3月の行事について, 4) 年次講演会講師について, 5) 28年度予算について, 講演と映画の会(昭28.3.7)司会者: 岡田淳, 挨拶: 高桑幹事長, 講演: 俱利伽羅トンネル(大野宏), 北陸の幹線道路(小林庄平), 北陸の水力発電(鶴飼孝造), モルタルの早期高温養生(高桑重三), 辰ノ口橋(高野寛英), コンクリート舗装の機械化(中田一幸), 歐洲のダム様式とスイスの建築(佐藤助九郎), 映画: 天龍川, 開発を待つ佐久間ダム, 観光の立山, 高桑幹事長の閉会の辞によつて盛會裡に終了した。第11回幹事会(昭28.3.11)出席者: 永田, 花井岡藤間, 高桑幹事長, 片岡, 渡辺, 井上, 鈴木, 中谷, 長坂, 増山, 小栗(代), 小村(代), 戸田(代), 四野宮(代), 鈴木誠(代), 鈴木隆(代), 早川(代), 和

久(代)の各幹事, 議事: 1) 公開講演会報告, 2) 28年度事業計画並びに予算案, 3) 年次講演申入について, 4) 3月行事役員会開催。

4. 関西支部水工学講習会(昭28.3.25~27の3日間)出席者: 第1日390名, 第2日336名, 第3日304名, なお詳細は次号に報告。

5. 西部支部支部総会(昭28.3.9)挨拶(穂積幹事長)映画(九州の復興, 東京の復興, 三面ダム, 上椎葉ダム)27年度事業報告, 28年度役員改選, 新旧役員挨拶, 講演: 時局問題について(山本正男)新役員: 支部長(田中吉郎)商議員(伊藤剛, 加藤正晴, 大島末彦, 飯田一実, 近藤勇, 鬼丸忠男, 佐分利三男, 是枝実, 鷲崎文雄, 下島正夫, 渡辺寛治, 重松愿, 川上謙太郎, 江口辰五郎, 森田定市, 田中敬親, 山野善次, 西松康友, 熊川信之, 塩塚重蔵, 吉田朝次郎)地区常議員(三浦文次郎, 蒲地浪統, 高木健, 内田一郎, 宇野周三, 根来幸二郎)幹事長(山東盛彦)幹事(山崎徳也, 古賀雷四郎, 佐田愿, 別所多喜次, 大塚謙一, 天方正彦, 上田年比古, 和田善吉)編集委員(篠原謹爾), 第1回幹事会(昭28.3.20)出席者: 田中支部長, 山東幹事長, 山崎, 古賀, 佐田, 大塚, 天方, 上田, 和田の各幹事, 議事: 1) 28年度事業計画及び予算案の検討その他。

昭和28年3月分入退会報告(28.3.1~3.31現在)

1. 入会 62名 (正12, 准17, 学33) 2. 退会 524名 (特4, 正105, 准396, 学19) 3. 転格 3名
准より正1, 学より准2)

会員現在数(28.3.31現在)

名誉員	賛助員	特別員	正員	准員	学生員	合計	差引減
19	16	244	4655	4919	1250	11103	462

昭和28年4月10日 印刷 土木学会誌
昭和28年4月15日 発行 第38巻第4号 定価 100円

編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川一美
印刷者 東京都港区赤坂溜池5番地 大沼正吉
印刷所 東京都港区赤坂溜池5番地 株式会社技報堂

東京中央局区内 千代田区大手町2丁目4番地 電話 和田倉(20)3945番
発行所 社団法人 土木学会 振替東京16828番